

川柳句集

ぶ

ろ

べ

松橋帆波

当句集中の全ての作品及び文章には著作権が存在いたします。無断転載・転用は禁止いたします。

Copyright 2006 honami matuhashi

序

現在、句会・吟社川柳の世界は高齢化が進んでおります。

インターネット環境をお持ちでない、ご利用でない川柳人の比率は相当なものであると認識しております。

それでもあえてネット上で作品集を発表いたしましたのは、ご高齢の柳人の方々が、そのご家族・お知り合いのネット環境を通じて作品集を読んでもらうことで、少しでも川柳愛好者人口の増加の一助になればと考えたからであります。

また、来年2007年は初代柄井川柳が初めて万句合興行を行ってから250年目

となる記念すべき年であります。「川柳」という文芸がこんなにも長い間日本人に親しまれ、愛好されてきたことに思いをはせると同時に、250年をきっかけに川柳人口が増えることを願ってやみません。

この作品集を読まれた方々が、新聞・雑誌・ネットなどの応募川柳だけでなく、句会川柳、吟社川柳という世界にも参加していただけることを願っています。

2007年9月吉日

松
橋
帆
波

目次

序	2
目次	4
お酒と煙草	5
男と女 女と男	57
家族	11
世の中を見ていると	63
健康アラカルト	19
まつりごとなど	86
何時でも恋をしています	29
おわりに	98
お金は大事	43

「
お
酒
と
煙
草
」

記憶にはあつたが酒のせいにする

飲兵衛のこれが最後を憎く聞き

週末の酒忘れたいことがある

その先を言ったか下戸に問い質す

酒吐いて男を辞めてみたくなり

マルクスはまだ生きている ハイボール

焼酎が言う改革も金の事

アルコール帰巢本能だけ残り

誤魔化してみようか 酒を注いでみる

ご返杯 まだまだ本音とはいかず

何もかも逃げ水にする酒であり

過去形が多過ぎないかなあ酒よ

いい歳であるうが酒は酔うもので

再起動 午後になります二日酔い

千鳥足二人 アカペラしてござる

もう今朝の禁酒が解ける露天風呂

仮処分 医者からくらくら酒のこと

六月の酒の理由が見当たらず

昨日泣きました お酒を友として

姉さんを本気にさせた人と呑む

喫煙所パイプ椅子とは嘆かわし

禁煙の三日ぐらいは君子めき

胃カメラの日が決まってもたぶん吸う

プレハブで愛煙権が保証され

隅っこで氣勢の上がる愛煙家

一人だと禁煙席に甘んじる

喫煙所吸っていないとダメですか

彼女が吸うから喫煙席にいる男

入院をしても野外で吸わされる

喫煙者組合などをふと思う

パソコンの都合を待っているタバコ

僕のパソコンもニコチン吸っている

1ミリを吸っても同じ税らしい

タバコ税大義名分背負ってくる

煙草より高いビタミンCを摂る

禁煙の理由を書いて売る煙草

禁煙のガムの値段に躊躇する

労働の後の煙草が美味すぎる

細長い煙草吸う手に貢がされ

たばこ吸うおんなとケーキ食べに行く

「 家 族 」

酒臭い話も母は聞いてくれ

暑いねで始まる母の電話口

上京の母へ地下鉄ややこしい

夏の夜も先には寝ない母がいる

母からの少し膨れたダンボール

母の日に元気で留守な母であり

想う日が 母の日 父の日でいいさ

年毎に母の師走が軽くなる

父が米磨いでくれたと母無邪気

親指の形が母に似て不幸

母の手を握る 背筋を悔い走る

母の背の記憶と裸電球と

父の生き様はいつでも酒臭い

それとなく父の日を言う父であり

父親になった当座はマメでした

父さんがサンタで何がいけないの

飲まないで帰れば妻が飲んでる

母に似てやはり義母にも似て妻で

花の苗 妻の母性が美しい

煙草吸う妻にしたのは私です

女房の寝言の語尾にスミダとか

妻という母と 夫という他人

フリーサイズの似合わない妻と僕

喧嘩するだけの妻ではないものを

聞こえないように女房へ礼を言う

ヨン様に飽きても僕を見てくれず

税務署へ行くのは痩せた妻の方

かみさんと足を絡める氷点下

カラオケで妻は中嶋みゆきなど

妻の留守 卵を二つ焼いてみる

想定範囲だ 妻の朝寝坊

妻の客 玄関を出てまだ喋り

言い過ぎた夜を忘れてくれる妻

ドロ舟へ妻というものありがたし

かみさんの枕の方が柔らかい

露天風呂 妻の背中が美しい

家計簿の折れ目の数や十二月

正月も夫婦喧嘩は金の事

双子だと聞いて出産祝い揉め

夫婦にもある 靖国のようなこと

ばあちゃんが焼くから卵焼きだった

ばあちゃんはみんなプロレス好きだった

母さんはどうしてアヤヤではないの

チチンパイパイはママしか使えない

肩書きへ下げる頭は子に見せず

下手糞な詩を子の部屋で見えてしまい

弟と親の話で暮の酒

女房をよくもそこまで罵れり

幾らつて聞く癖 姉も所帯じみ

小姑に負け犬などと言わぬよう

姑もパトリオットを持っている

呑んできた夫ばかりが蚊に食われ

午前中夫の事は考えず

事あるといらぬものになる夫

盆の灯へ話せぬこともあり帰省

「健康アラカルト」

医者の言う通りを仕事許さない

ボケたかなあ 診察券をレジで出し

点滴の針をゆすると骨の音

留守電に病院からの命令書

病院に出そうか迷う年賀状

鼻の利く医者とは反りが合いません

飲んでいませんかと酒のことらしい

医者 of 言う運動をして怪我をする

CTに僕の鍾乳石写る

食欲の切なさ辛さ検査前

診察券詐欺というのも出るのかな

真夜中に主治医と出会う初詣

同じ事今日もカルテに書き込まれ

いい医者話し 待合室で聞く

年のせいだとビタミン剤をくれ

ポリープじゃなかったエレキバンでした

その先を言わない医者で物足りず

ポイントが診察券に付いたなら

外食と煙草へ医者が小うるさい

白身なら食べていいとは酷な医者

かみさんと医者に内緒のチャツチャ系

持病とは悲し 五分も診てくれず

ビタミンがきつと足りない言葉尻

体脂肪計は宿題ばかり出す

近眼も老眼になるややこしさ

鉄アレイ小指ぶつけぬところに置き

縄跳びをしていて犬に吠えられる

健康に良いらしいけどミドリ色

日曜の朝も納豆律儀なり

栄養素書いてあるけどカップ麺

正月の餅は脂肪で出来ている

パンだけじゃ血になりません日本人

一食で都市ガスほどの熱を摂り

カロリーで選んで不味い物ばかり

マヨネーズ下さいという僕の舌

二月十五日 日本の血糖値

糖尿であれ義理チョコの心地よさ

六甲の水で薬を飲んでみる

風邪を引きそうで餃子を追加する

指からもビタミンCを摂るみかん

背脂の中毒患者ですわたし

朝食は立ち食い 昼はベンチ食い

チャーシューの旨さ 血管詰まるほど

コクトロを食べて献血できません

チャーシューが溶ける 体が痺れます

良心の呵責で野菜ジュース買う

ユニケルをまとめ買いする暮れの風邪

その先に血尿という句読点

年を越す仮歯を指で確かめる

数ミリの石が私を凍らせる

口惜しいけれど座薬を開けている

厄年や五臓六腑へ石を抱き

石が出た 割箸を持って 小便器

「入れます保険」に入れない持病

語尾少しバイオリズムに乱される

正直な人が胃薬飲んでいる

反省のネタばかりある不眠症

不眠症冷蔵庫すら敵であり

起きているだけで疲れる花粉症

梅干のように胃薬飲んでおり

減りそうで金歯はそつと磨きます

胃袋とウエストだけはエコじゃない

風邪一つにも厄年を思わされ

万病の元 一日で出ていかず

気骨なき裸身へゴムの跡ばかり
血糖値にも偏差値があるらしい
脇腹を掴むとリード出てきそう
マール状の左脳右脳を御存知か
胃の中にノーベル賞の素が住み
疲労骨折している耳の中の骨
咳ばかりして腹筋が鍛えられ

「何時でも恋をしています」

勝手だが 妻より妻にしたいひと

エアコンに抱かれて薄っぺらな恋

王女でもないのに王子様を待ち

占いを梯子して聞く恋の鬱

メモリーへ男名前で棲む子猫

矛盾まで愛しい 君と居る時間

週末に逢えない人を 愛してる

隠し事しているらしい喉仏

指と指絡めて世界二人占め

君の名がカフェインよりも効く夜更け

男です指輪が邪魔な夜だとか

妻よりも柔らかい手と罪を積む

色狂いなどと他人は楽しそう

まなうらにルージユの色の生々し

しがみつく方は無邪気な二人乗り

痴話喧嘩 お好み焼きが冷めている

デュエットを誘われたので惚れました

意地悪をしたのは君が好きだから

颯爽と柑橘系の君がゆく

坂の町でした 市電の恋でした

厄年の恋 涙していいですか

待ち合わせするには邪魔な薬指

常識の範囲で逢って 痩せていく

あの夜の事は墓まで持っていく

振られたと泣くマスカラに恋をする

懐かしい町に 蹉跎の走馬灯

みんな幸せだったらしいな 過去のひと

君の名はメロン 高貴な響きだね

襟足が湯よりも鬱に効くようつで

ときめいた瞬間に来る 死の臭い

春の恋人達へ未来を進ぜよう

義理堅いホワイトデーを嫌がられ

手をつなぐ二人は空気清浄器

取りあえず泣いて明日の恋探す

紳士ですこんなに君が好きだから

君の事想う去勢をしたくなる

君の眼に映る僕の眼の中の君

茜満月モラルを嘲うのは影か

淋しくて絵文字に汗をかいている

ラブメールというと何だかいやらしい

哲学を言う面倒な秋の恋

君を忘れるための小石を選ぶ河原

三分で愛することと憎むこと

どの君もピンクに見えるスニーカー

上履きが光って見える片想い

イエスノー枕はどこへ捨てましょう

押入れに隠しておこう 抱き枕

膝小僧擦りむくほどに好きでした

予報円 君との予感なら許す

雨宿り 淫らなことを考える

泣いてやるこの群集の真ん中で

プロポーズされそうな日のワイン抜く

カフェオレへ垂らすバニラがあなたかも

この程度では酔わないが酔ったふり

花の名を覚えて 好きな人がいる

土踏まず冷えて 夜更かし虚しくて

あのひとの街にも白い雪かしら

唇を罪の形に開けておく

時めいたことがあります二の腕に

毒の味知っております薬指

防水と書いてあるから泣いてみる

二度鳴って切れるわたしのかくれんぼ

鬼じゃないほうが楽しいラブゲーム

終電はいつもカボチャの馬車である

味見した男へ軽い歯型など

真っ赤に熟れて 鬼灯の待ち惚け

けだるさの中で男の嘘を聞く

純愛が売れる 世も末なのかしら

好きという字しか書けないあなたの背

バスタブで体育座りする涙

傷つきはしない大人の恋だから

人型に凹んでしまう抱き枕

6度5分 チョコレートではいられない

酸欠で月のウサギが見えません

ちゃんと種まで食べてください サクランボ

凸凹の隙間は妥協しておこう

言い訳のように煙草を吸う男

悦びが怖い あなたに抱く不信

男なんてと 自己完結の夜である

吹き出してしまおう あなたの指の中

この朱は アンタのための朱じゃない

宇宙へと溢れてしまおう ツユ シズク

年輪の一番奥にある滴

指と指 絡めて湿度百の中

尖つてるところが全部スイッチで

貪りませう 理由は後でつけませう

覚めたのか 金を数えている男

月の恵みを知らないでいる男の愚

マニユアルで笑う 恋する 泣いている

月を見えています あなたが遠いから

舌先で背中に罪の物語

下ろされるためのファスナーぎこちなく

帰りたくないです 赤い風車

隙間風 吹かないようにギュッと抱く

からだよりこころにかぜのとおるみち

恋終わる 海の香りがする風に

霧雨の中 恋情は自慰となる

身構えています 恋愛運の日は

閉じてまた開ける 新着メールなし

髪切ったくらいでドラマ聞かれても

金曜の夜は圏外ですかしこ

「
お金
は
大
事
」

土壇場を知らず儲かる運もあり

ガム踏んだ日は宝くじ止めにする

甲子園寄付の話もして茶の間

いろいろで済むこと済まぬこと お金

老人のお金を狙う民営化

釣銭が多い日神に試される

この先は生活保護か宝くじ

兜町春の話を秋にする

妄想を会社四季報から貰う

使わないものをテレビに買わされる

一円の差にママチャリは風になる

香水がお金お金と小づるさい

振込みの機械にもあるキーボード

人間を辞めたら金になりますか

金の事にて 友情もこれまでか

要領の良い金 残るものでなし

掌が小さく見えた日の小銭

百円で買う 百円の顔をして

借財を知らずジングルベル響く

捨印を捺す時ゾツとする背中

魂の代弁をする五円玉

泣きながら札を数えたことがある

二千円札に暗算させられる

小商い合わない金と年を越し

九回の裏で買ってる宝くじ

宝くじだったらずろ目欲しからず

信号は赤だが兜町にいる

ボーナスという不確かなニッポン語

旧五千円札を見舞いに持っていく

自販機の釣りを賽銭箱へ投げ

最初から無い残高は騙されず

税務署の人が来たから畏まり

税務署の民営化とかないですか

税務署へ行く腕時計選っている

寂しすぎるね 税務署員の汗

サービスの良い税務署を知りません

これも引けますよと税務署は言わず

税務署で足し算ばかり教えられ

指で零なぞり税額二度数え

税務署の「ご苦労さん」はギャグですか

税務署の庭に二宮金次郎

割り勘で聞く説教のアホらしさ

烏森口にいますか青い鳥

儲かった話を鼻で笑いたし

一円を拾う 善い事なのかしら

金がない時に好きだと言われても

助けられなくて 助けてもらえない

嘘くさい臭いを放つ福袋

百均でありがたそうな数珠を買う

日本の支援をドルで言う不思議

初詣 塩漬け株をふと思う

お互いに借金してる殴り合い

巧い事やると拍手は貰えない

本当に何でも買える兜町

餅代で餅買う議員おらんかな

自販機は偽コインへも礼を言い

金運と書いてあるから見るPOP

株主という肩書も面白し

いい授業料だったと探る落としどこ

金融用語肴に舌を嚙んでいる

資本主義ついていけない桁を読み

ジャラ銭を持って定時に帰宅する

マスコミの物差しでさえ金であり

万札を溶かして休日が終わる

結局は金だったねと書き込まれ

レシートのゾロ目 籤でも買おうかな

理髪店 店主も株を買ったとか

花の山 かねを集めてかねを買い

社の株を給湯室で売る話

株主と知らず課長は茶を頼み

みんな良くなってお客が損をする

手相誉められて三千元取られ

番付に今年もいない発明家

神様を探す三連単予想

万札はまず出てこない大掃除

優待も配当も来てこの株価

ボーナスは死語だが株屋から電話

値切ってはみたが心のわだかまり

判子より偉いらしいなパスワード

年金を取られ 年金から取られ

祝日に日の丸揚げてドル預金

だまされた訳じゃないのに金がない

生活の糧へ晒した頭頂部

兆という金の単位の妥協劇

もう一度買う事になる探し物

チャリンとも言わぬカードで用が足り

近眼か遠視か迷う兜町

雨の日に小銭握ると泣けてくる

ハゲタカを貶しています タヌキです

熱くなつては負けるババ抜き

証券化できない五尺五寸です

金になる屁理屈が売れ冬が来る

カタカナの名の株主が姦しい

鳥が風邪引いて株価が上がるとか

株持つてもらおう いったそニ猿に

解体屋の株が上がっていて寒い

お隣もハイエナだった兜町

美しくないらしいけど金の事

井戸端のネタも平均株価とか

有るようで無い 無いようで有るお金

電話口 株屋も風邪を引いており

税金を流すトイレがあるらしい

神様を裏切ってから金の運

「男と女 女と男」

パート先気が効く男ばかりいる

謎掛けの答えがずれている男

演歌です おんなの性が歪められ

どこをどう切っても同じ男たち

民営化出来るものならしたい家事

やり直したい頁は折ってある日記

嫉妬する男 退場願おうか

妻という女ですものテレパシー

侍を自任 あなたも軽いわね

泣いている影にも嘘がある私

狼かどうか偏差値では見えず

終電を逃すと女強くなり

道具から入る男の台所

ポケットの指輪問い詰められており

痩せていたって女の人には柔らかい

女偏 羨ましくもありおとし

町会デビュー肩身の狭い男です

大根を男が買ってくる値段

太陽を避けて男の沽券とか

未亡人キャビアを食べる猫を飼い

おんな対おんな握手は死語らしい

果敢なくて男は戦うのです

ブーツ履くおんなは鍵を掛けたよう

使い捨てされて男は骨になる

演歌 艶歌 宴歌 おんなをなめている

男女差と呼んで 女男差とは呼ばず

偉い人らしいが家事は駄目らしい

オバサンが元気で怖い高齢化

無理するか耐えるか選ぶ男たち

悪女狩りしたら女がいなくなる

舌を出すことを覚えたハイヒール

ハイヒール 戦闘準備しています

自転車のように男も放置され

甘えてるようで脅しているおんな

悲しいね 武器と呼ばれる 泣きボクロ

キヤバクラの灯に切なさのありなしや

源氏名を縮めた渾名さみしくて

指名料そうかこの子も棒グラフ

「世の中を見ているよ」

カリスマの妻にカリスマ性がない

オバチャンの自転車避けたほうに来る

コンビニが似合う若さが妬ましい

捨てられぬ物を見つける大掃除

蝉蛙 地球の辞書が軽くなる

視聴率あれは羊の数なのさ

タヌキです 大人の知恵を練っている

ハゲタカもたぶん白馬に乗ってくる

カブトムシ売り場 男尊女卑でいる

人間を説く御立派な猫抱いて

鳩と僕だけが乗り換え待つホーム

カメレオンもコウモリもいていい職場

ちゃん付けで呼び合う夫婦犬を飼い

犬を誉められて新聞三ヶ月

野良犬の最終兵器です尻尾

拾われた犬ラッキーと名づけられ

ゴング待つように逆立つ猫二匹

PTA御一行様酔っており

警官もウンコ座りをして尋ね

痴漢する亭主 万引きする舅

パソコンの向こう側にも僕がいる

チビツ子の目にややこしい野球界

はとバスで観る東京は広いところ

携帯を切って完全休養日

取りあえず驚いておく社の人事

正直は損かなと聞く裏話

掛け声がないと炬燵を抜け出せず

一年の悔いを見つける大掃除

馬鹿らしくなって出てくるサウナ風呂

コンビニの前で未来に睨まれる

特別な顔でうるつく六本木

逃げたくてポテトチップを買うのです

ペットフードの向こうに億の飢え思う

穴の無いドーナツ 贅沢だと思つ

にくらしいヤツを炒める中華鍋

牛丼がなくても困らない事実

こだわりの蕎麦蒟蒻の客で混み

耳の端に聞く蒟蒻もお西様

ポケットで缶コーヒーが冷めていく

朝食を決めるコンビニ2軒持ち

七夕のように牛丼売る話

昨日まで餅だった棚チヨコになり

もったいなくて賞味期限を煮ています

喉越しというステーキの食し方

一回は食べる新発売の味

發明してください 伸びないカップ麺

中華って地球最後のメニューかも

行列のわけを飲み干すラーメン屋

これというラーメンがない「くだおれ」

引き算がない若向きのラーメン屋

この店はされどラーメンらしい列

食玩がダブった今日の運終わる

コンビニでリセットをする帰り道

朝一の占い今日を諦める

電化製品は談合して壊れ

扇風機 邪魔臭そうに仕事する

君が代を莊嚴にする金メダル

道徳を語って締める占い師

加齢臭 枕カバーが許せない

知っている事もカーナビまくし立て

公園でこっそり泣いてから帰る

言い切ってこの虚しさは何だろう

寝返りを打つと枕がいけずする

情報化わたしの靴はどれですか

思い出のメロディーに似る雨の音

路線図を逆さに見ると面白い

チクリともせずにゴキブリなら潰す

逆さまに読めば白ける立志伝

わだかまりなくしたわけじゃない墓前

台風をイベントにする視聴率

定刻にバスが来るとは訝しい

隊列に世情を映す通学路

封をしてあるのが凄い本ですよ

大衆をなめているんだ ワイドショー

色惚けと妬みで保つ視聴率

マスコミの右へ倣えの臭いこと

ツッコミをテレビに入れて外は雨

匿名になると歪んでしまう澱

正面を知らず斜めを言う若さ

内輪揉めさせたいような事を記者

紅白を見ない自慢を聞かされる

正月の空気を読めぬレジ袋

悔いがあるから懐かしい唄

他人事でございますから軽い口

衰えし月にも陽にもなれぬまま

躓いた足は自分の足である

踵がボロボロになっている父だ

ライトアップの街で先送りが流行る

誘惑をする街の灯も厚化粧

振り向けばなんとも薄い僕の辞書

欲望が手から零れてばかりいる

土壇場で逃げ道ばかり言う尻尾

切り札のようにコンビ二開いている

絵文字にもマニュアルがある窮屈さ

カタカナで色々に言う穀潰し

少年の眼に透明な他人達

金曜日までは無理矢理生きている

製作の秘話を聞きたいウォシユレット

弱きを挫く人から叱咤されている

レッテルを貼って新聞記事が出来

根っ子より枝葉が好きなニュースショー

忙しなく生きて天気を気にしない

嫌な事今日のスパイスだと思っ

通夜二つ重なり来し方を思っ

斎場を出ると独りの月であり

遮断機の音で白昼夢が覚める

磯野家の闇の部分を見てみたい

駅一つ歩く自分に会うために

やってから悩む若さが懐かしい

ヨン様の様が取れる日待っている

誘ってはくれたが頭数らしい

グレー対グレー 答えもグレーとか

乗っ取りというイメージに乗っ取られ

みんなして礼節をいうおもしろさ

どうしても字余りになる日記帳

トラウマが箸の先まで恐くする

くぐもった声で人間食う話し

二十世紀と揉めてる 二十一世紀

なんとまあ器用に走るモノレール

肩書は社長 一番忙しい

交番のテレビ電話という無力

情報戦煙ばかりを焚いて見せ

騙される側で呑気に生きている

ご隠居という日本語がありました

転ぶ人狙うカメラも雪の中

「そんなに急いでどこへ行く」って死語らしい

行列の中で喜劇が飢えている

好奇心もうテレビでは癒されず

答えれば答えたでまたワイドショー

アイディアは出たがトイレにペンがない

ジーンスの穴から見えるのも仮面

何坪で揉める 何センチで揉める

手品師の鳩はバカでは務まらず

僕の字を読める機械が欲しくなり

気がつけばこんなにもあるパスワード

点数の出るカラオケで気が滅入り

泣き切った人で葬式では泣かず

Tシャツはやっぱりいないクールビズ

賛成 反対 褒美をくれる方にする

青春を演じる 青春が寒い

手渡しが一番堅いセキュリティー

だからネットはと言いたげな語尾がまた

良いこともする人間で面白い

その先を説明しないコマーシャル

横書きに慣れて隙間の多い脳

家にいて時差ぼけになる夏休み

ご先祖に一人ぐらいは宮仕え

劳いの言葉 お寺もマニュアル化

目覚ましの数を増やしてみる決意

昨日今日明日とゴムは伸びたまま

寝る暇の無い幸せと不幸せ

双六の上がりはムンクだと思う

P R I D Eのようにも見える大相撲

なんてことないさ 自分史にもヤラセ

どうやって共生しよう「うっかり」と

彼岸花 肩のあたりを叩く風

素人の剪定 ちよつとだけ殺意

差し入れの善意 重なっても困り

お立会い あなたはNOが言えますか

小石だが想定外の場所にある

戒名は一回きりのペンネーム

踊り場で八分の腹を持って余す

反省が猿より下手でよく眠れ

メディアより早く写メール飛んでいく

占いが当たった捻挫してしまい

丸ビルがもう過去になる丸の内

全部言いたくて言葉が空回る

ウォームビズ地球はとうにしています

紅白の60曲がクイズめき

地下鉄の車窓に映る皺白髪

引越しとガサ入れ同じダンボール

大掃除しても片付かない思い

小吉が嫌でも一度ひいてみる

「まじりごとなど」

代議士が来て通夜少しざわめかせ

前借りは選挙にこない世代から

我が身なら誰も野党を支持しない

ニッポンの二択が好きな羊達

八千七百六十で割る歳費とか

選挙カー　タダで力をくれと言っ

消極的支持率を問うアンケート

世渡りは解釈　総理から学ぶ

ピョンヤンで土木がしたい正常化

改革の約款無いのかも知れず

一票が積もり積もったバツヂだが

大衆は正義 匿名ですけれど

比喩暗喩 公職選挙法睨む

選挙権ない写メールに囲まれる

風見鶏みたいな政治評論家

イベントですか？ いいえ国政選挙です

「あの人は今」立候補するそうなの

全員が改革を言う立候補

八つ当たり解散という新兵器

変人を人と思っていた不覚

国民に丸投げをする民営化

マニュアルにあるスマイルと消費税

九条の国で発砲されている

ビーンボールもデッドボールもある選挙

見てみたい政経塾の経の人

戦争で騙され 改革で騙され

増税 増税 いずれ戦費という枠で

国に「お」をつけて 見えない 聞こえない

白人がやられりやみんなテロにされ

欲しいから戦争をする星条旗

背景は平和ではない平和賞

線を隔てて銃と石ころ

戦争をしないでも減る日本人

戦争を知らない居酒屋のホツケ

その時は大本営となるテレビ

軍歌なら誰も音痴にならぬ過去

新聞の社説とずれていくわたし

いとも簡単に右だの左だの

日の丸に騙されたがる男達

国の為ですか お上の為ですか

昭和史が苦手で困る金バッヂ

迂回献金ヘジヨークがまだ続き

六本木ヒルズが最後には笑う

連休が商店街を過疎にする

半身だけ行く靖国の初詣

その気なら核も積みそうH2

脱法、不法、違法、日本は情の国

国会で目糞鼻糞言っている

情報が減っているかも新聞紙

食の安全を言っていると残飯が笑う

黒船に素通りされるのも困る

今更に黒船を言う国際化

文明の利器自殺者を減らせない

万歳が好きで羊の無責任

対岸の愛国心もききな臭い

ヨン様の国 日の丸を焼いている

平壤は投げる卵も無いだろう

ファミレスの皿で米中仲が良い

日韓に合うOSが見当たらず

反日へ次のフィクションどうしよう

確率はどっち 地震と北の核

六カ国核があつたり無かつたり

フィクションとノンフィクションがイラクから

米軍はやはり占領軍であり

愛・地球博で働くフリーター

談合で僕らはみんな生きている

談合の配電盤が美しい

料亭で大人の知恵を授けよう

新橋で聞く笑えないジョーク集

士農工商 サラリーマンは農に似て

放射能以外も漏れる原子力

原子力まさか老朽化と言えず

大臣も苦手らしいなカタカナ語

新旧交代村の掟が邪魔をする

老人に群がる正義 偽善など

ハローワークにトライアウトがありません

演出とヤラセ 政治とバラエティー

郵政の次はJAだよきつと

民営化記念切手は出るのかな

憲法が錆びる 立法府の怠惰

重箱の隅で未来を弄ぶ

B様が増える日本の未来地図

政党の名で互助会をやっている

その先の先に触れない女帝論

首都移転 そんな童話もありました

町会は国よりひどい高齢化

マスコミの改革 誰も言い出さず

おわりに

2004年7月に「川柳ブログ 帆波の句箋苦闘」を始めました。

この句集は、そのブログに掲載した2004年7月から2005年12月までの作品から自選したものです。

ブログを開始したときから、どついう形にせよ、掲載した作品をまとめようと考えていました。日々のニュースによっては、書下ろしではなく既発表句もUPしております。たので、それらを除いた2300句ほどの中から選考しております。

インターネット環境が加速度的に進捗した、2004年から2005年にかけての書き

下ろし作品集といってもいいと思います。

そのため、選考は困難を極めました。

時事を扱ったものはそのほとんどが色褪せており、心象を扱ったものは、活字として多

くの方々の鑑賞に堪えられるものなのかどうか疑問の残るものが多くありました。

あえて残した句もございますが、泣く泣く落とした句もあります。

この句集制作によって得たものを、今後の作句・評論に役立てる事ができればいいと思います。

この作品集「ぶろぐ」を発表するに当たっては、全体の構造をすべて無料で、誰にでも

同じようなことが出来るようにと、簡単な構造を目指しました。

いろいろな無料サービスを試し、中でも「句箋苦闘」の読者でいてくださっています

「ブログで億万長者！かんたん！儲かる情報起業のつくり方」

<http://blog.livedoor.jp/mi11iondollardream/>の

hide yamamotoさんのアイデアは、大きなヒントになりました。

この場を借りて、改めてお礼を申し上げさせていただきます。

雑感を掲載しております「句箋苦闘」のブログシステムは、株式会社livedoor

のシステムを使用しております。

データをPDFファイルに変換する部分は株式会社クセロ<http://xelo.jp/index.html>の無料版クセロPDFソフトを使用しております。

ファイルデータを保存してあるブリーフケースはYahoo!のサービスを使用しております。文章作成はMicrosoft Wordで作成いたしました。これも無料ソフトでということですが、途中からOpen officeを使用しております。このソフトでPDF変換も行えるのですが、今回はフォントの関係上、最終原稿はMicrosoft Wordで作成したものをクセロPDFで変換する形を採りました。

平成十八年九月二十一日

著者

川柳句集「ぶろぐ」 著者 松橋帆波

「川柳ブログ句集苦闘」 <http://blog.livedoor.jp/honamikp61/>